

月刊 介護保険

介護に携わる人の
応援マガジン

特集1

一定以上所得者の 利用者負担は2割へ

次期介護保険制度改正の議論が一巡

特集2

工夫を凝らし収益を確保する事業者

平成24年度介護報酬改定の影響は

● 現地ルポ—自治体編

ユニークな発想で介護予防事業を展開
神奈川県海老名市の取り組み

● 現地ルポ—事業者編

利用者を通じて地域づくりの“装置”をつくる
小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」(神奈川県藤沢市)

2013

11

vol.213



街

へ出よう！

ト
ラ
ベ
ル
ヘ
ル
パ
ー
が
教
え
る
外
出
のコ
ツ

)



NPO法人
日本トラベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しのづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トラベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。

公共施設を使いこなす① 宿泊

「次は私がお風呂に入れてあげたいのですが…」

担当したトラベルヘルパー(外出支援専門員)は、利用者の娘さんから、そんな宿題をいただいてきました。介護旅行を無事に終えた板橋さんは85歳。要介護度は3ですが、下肢は完全麻痺しているので、寝返りするにも介助が必要でした。初めての相談は、3年ほど前のこと。

「父親がどうしても開聞岳を空から見たい」というので、なんとかならないかという内容。行き先を知り、このまま思いを残したくないという本人の気持ちがわかっただけに仕事にも力が入りました。

開聞岳は鹿児島島の南端、薩摩半島にあります。標高1000m足らずの山ですが、稜線が美しく薩摩富士と呼ばれており、近くに砂風呂で有名な指宿温泉があります。戦時中は特攻隊が飛び立った地であり、多くの若者が帰らぬ人となった…、板橋さんもその一人のはずでした……。

「こんな身体になっても、旅行に連れて行ってくれる会社があるなんて…」

初めて介護旅行に出かけたとき、トラベルヘルパーの働きをプロだと褒めてくれたのが嬉しかったことを覚えています。

そんな旅から1年も経たぬうち、次はラベンダーを見に北海道へ行きたいという希望が生まれました。旅では父親をお風呂に入れてあげたいというのが、娘さんのリクエスト。旅に行こうとすることで希望が生まれたのは、父親だけではありません。日本人は本当に風呂好きで、介護旅行でも温泉に行きたいという要望が多いものです。なかにはどうしても大浴場に入りたいと切望する人もいて、軽度の方なら、トラベルヘルパーが裸のつき合いをすることもあります。

入浴介助はトラベルヘルパーが着衣のまま行うので、大浴場の利用は旅館から断られることが多いのも事実。衛生上の問題はもちろん、ほかの利用客への気兼ねもあります。そのため、旅館やホテルを利用するときは、風呂付の部屋を用意するか、家族風呂を貸し切るなど、ほかの客に迷惑がかからない方法をとるようにしています。

地域によっては、公衆浴場法にもとづく条例で入浴時の介助を制限していますが、超高齢社会にはマッチしていない条例なので、改正を求めています。

こうした要望に応えてくれる旅館はまだ少ないのですが、たとえばバリアフリーの環境が整ってなくてもトラベルヘルパーがいればできるかぎりお手伝いするので、高齢の家族がいる旅なら、こうした心意気のある宿をすすめています。

あれから3年、板橋さんはすでに米寿を迎えています。子どもの頃、自分が入れてもらったお風呂だから、今度はお父さんを入れてあげたい。本当の親孝行とは、こういう気持ちなのだと思います。